

How to ??

高部英明

学生のころ「How to もの」がはやったことがある。ハウツウ物でも異色な「How to sex」なる本はベストセラーで話題をよんだ。これは残念ながら読む機会は逸したが、正統派の「知的生活の方法」(渡辺昇一)「考える技術、書く技術」(板坂元)などは熟読した。田中金脈をあばいた立花隆の「知のソフトウェア」なども大変参考になった。

とかく、ハウツウ物というと軽く見られ(たぶん文部省の役人はこの手のものが嫌いなのだろう)邪道であるとさえ言われることがある。実際、学校で「作文の技術」など、国語の時間に習った記憶がない。作文となると文学のための文章という教え方で、文の良し悪しは「その人の文才による」と突き放した教育であったように思う。大学でも作文の時間などなく、教養部の英語といえば文学の云々で、理系の人間にとってどれほど有益だったか。ところが四年で卒業論文となり、大学院で論文を書くとなったとき、さて困った。なかなか筆が進まない。

10年ほど前、米国にポス・ドクとして滞在したとき、ポスにたのんで大学院の講義を受けさせてもらった。受けたのは「English composition (英作文)」。

「American English Rhetoric」という本をTextに週3回(月、水、金)の講義。最初に習うのは英語的発想法とはどのようなものか。例えば日本を含む東洋系(Oriental)は婉曲的(図に描くと蚊取り線香のように論点にぐるぐる回りながら近づく)これに対し、英語の表現はストレート、と言う具合。言語による思考法の違いを教えられ、英語の発想法をたたき込まれる。

それから毎週、次のパターンを繰り返す。月曜は文例を学ぶ。例えば「例を出しながら説明する文章」、「比較による説明文」、「原因結果による説明文」など、各週に一例ずつ学ぶ。そして宿題が出る。テーマを選びアウトラインを書かされ、水曜に提出する。水曜にアウトラインから論理の流れのチェックを受ける。そして金曜に文章を提出する。これを半年やらされた。最初の頃、研究そっこのけでこの宿題に「うん、うん」うなっていると、女房から「貴方、何のためにアメリカに来たの」といわれたものだ。しかし、このEnglish composition、とてもためになりました。

コンピューターが進んでも、文章を書くのは人間です。ビジネスがめまぐるしいほどに、文章による情報の伝達が重要となります。日本の大学や大学院は何故「理系のための作文技術」や「ビジネス文章の書き方」などを教えないのでしょうか。文才あるなしにかかわらず、基本的な「How to」を身につければ、有る程度のレベルまで労せず達するはずです。研究論文などに、文学性は不要です。いかに明確に著者の考を伝えるか。とかく、谷崎潤一郎的ねちねちした文章の論文を目にします。そして行き着く先に陳腐な結果しかなかったでは笑い話にもなりません。

最後に、文は人なり、「How to 人生」です。研究を進めるときアウトラインを書いてみると無駄な部分、先にやるべき事などが明となります。どうにかなるだろうと日々過ごす人生など読みごたえのある人生とはいいいがたいと思いますがいかが。「いや、今やカオスがはやりだから」、などと言わないで下さいよ。